

# ¡Hola amigos!

R と N の Málaga からの手紙

(013号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2003年 8月29日 R & N

目次	更新日
<a href="#">身辺雑記</a>	2003年 8月29日
<a href="#">食べある記</a>	2003年 8月29日
<a href="#">買い物百般</a>	2003年 8月29日
<a href="#">エクスカーション</a>	2003年 8月29日
<a href="#">ビーノ y セルベサ</a>	2003年 8月29日

---

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。

悪しからず。

---

## \* 身辺雑記 \*

\*\*\*\*\*

### 「フェリア」の巻 2003年8月29日 更新

feria : 市、祭り、縁日、土を除く週日、(中米で)つり銭・チップ、などとなっています。フェリアといえば旅行案内にはセビー(リ)ヤの春祭りのことが必ず出ていますが、この辺の町ではこの時期にやるお祭りをフェリアとっているようです。夏祭りですね。ここ何週かこの辺の町で次々とやっています。

先週一杯マラガはフェリアでもちきりでした。と言っても春のセマナ・サンタとは較べ物にならず、盛り上がりはイマイチだったようでした。やはり、こう暑くては人出も春ほどではなく、私達も現場へは行かずテレビで様子を眺めていただけです。

詳しい事は分かりませんがこのフェリアは宗教行事ではなく単なる夏のお祭りだったようです。宗教行事なら、毎年決められた手順に従ってきちんと同じことを同じようにやるのが言わば義務付けられているわけですから、むしろ安心してそれに没頭できますね。しかし、ただのお祭り騒ぎを一週間ぶっ通しで盛り上げるというのは大変なエネルギーが必要でしょう。地元テレビは毎日祭りの様子を流していましたが、いつ見ても同じような画面で、リポーターもややだらけ気味でした。シマラない話です。

夏祭りなんてのは、一晩オミコシでも担いでワッと騒いで、花火をドドーンと打ち上げて、はいオワリ、というのがいいんじゃないでしょうか。よその国に来てイチャモンつけるのもなんですが、チョットお祭り騒ぎが多すぎるんじゃないの、と思ってしまう。私達がただ一つ楽しめたのはフェリア期間中あちこちで開かれたフラメンコ・フェスティバルで、素人のコンクールあり、プロの演奏会あり、その幾つかは時々放映されていました。実は先週の金曜日、隣町トレモリノスの公会堂でプロの演奏会があったので行こうと思ってバスを待ったのですが、丸一時間待ってとうとう諦めました。其処は電車で行くととても不便なところでバスしか利用できないのです。

このバス停を通るのは四系統あって各系統が少なくとも一時間に一本は運行している筈なのです。一時間待って何もこないというのは明らかに異常です。大勢の地元住民も待っていましたがさすがに皆ウンザリしていました。反対方向へ行くバスのドライ

バーに文句を言っている人もいました。しかしこの土地ではこういうときキッチリ筋道立てて苦情申し立て、という習慣がないんでしょうね。だから改善もなし。とにかく、この町のバス会社には絶望です。責任者デテコイです。トなると、当然好きなカデイスが引き合いに出て来ます。かの地のバス停には、この系統のこの時間帯は何分間隔の運行ですよ、と明示してあってほとんどその通りになるんです。当たり前と言

えば当たり前ですが、その当たり前がここでは通用しないのはナゼカ？

やはり、リゾート地、住民の半数は外国人、スペイン人の大部分も外国人が入ってきてから以後の流入人口で大半はサービス業、という土地柄のせいではないかと思うのです。こんな所へ住むのと、カデイスみたいな土地柄の好ましい所へ住むのと、どちらがいいか、迷う所です。カデイスの一番の問題は、例えばロンドンからできえ、よほど早い時間に出発しないとその日の内に行き着けないということです。逆にロンドンから三時間というここは真のスペインではない、とつくづく思います。

ところで、来週9月5日号は休刊とさせていただきます。今度の日曜から一週間ガリシアへ行ってきます。ガリシアというのはイベリア半島の北西角に当たる所で、クリスチャンにとっては特別の意味を持つ有名な巡礼地サンティアゴ・デ・コンポステーラやラ・コルーニャ、ヴィーゴなどの都市があるところです。雨の多い土地で、夏なお涼し、冬は厳しい気候に晒される、という所です。日本の北陸地方と思えば大体当たっているでしょうか。当然海産物は旨い筈です。

レンタカーか飛行機かといういろいろ迷いましたが、結局お得意の一番安いバス・ツアーにしました。これまでで最長のバス旅行です。さてどうなる事やら。

例の鳩は一羽だけ時々来て座り込んでいましたが、この一週間段々くるのが間遠になりました。呼んでも相棒がこないんです。相棒は近くの街灯まではくるんですが、ハカランダの木はイヤみたいです。そりゃそうですよね、いくらなんでも人家に近すぎです。一方、ヒゲのやつは相変わらず足しげく通ってきます。何をしに来るのか依然として不明です。何の理由もない、というのが多分正解なんでしょうね。

\*\*\*\*\*

## \*食べある記\*

\*\*\*\*\*

### 「ナバハス」の巻 2003年8月29日 更新

六月末から始まったこの界隈の混雑はまだ治まりそうもありません。いったい何軒有るのか、殆ど無数と言えるほどあるバル、レストランテ、チリングートなどは食事時になると何処もここもほぼ満席で、空席を探すのもママなりません。

何処からこれだけの人数が繰り出してくるのか不思議なくらいです。北欧を中心に日頃太陽の恵みを受ける事の少ない人たちが大挙押寄せているんですね。ソレばかりでなく、スペイン北部の人さえも夏らしい夏を楽しむためにこの南海岸に下りてくるようなんです。オテルもオテル・アパルタメントも人で一杯、私達のアパルタメントも空室は全部ふさがっているようです。食べもの屋はたまにはすいているところもありますが、軒並みの満席状態の中で、タマにぽつんとすいている店があってもちょっと入る気にはなれません。さてそうすると、ソトメシはますますウンザリ、勢いウチメシに偏ります。

以前、一緒に乗った長崎出身の機関長Mさんに揚巻貝(アゲマキ)というのを教えてもらいました。馬蛤貝(マテガイ)によく似ていますが少し太いかなという感じです。これは大いに気に入りました。椀(味噌・オスマシ)に良し、酒蒸しもまた良しです。マテガイに良く似ているので同じ科のものかと思っていましたが、例によって広辞苑を見るとマテガイはマテガイ科、アゲマキのほうはナタマメガイ科となっています。前者の項には、美味、とありますが後者にはノーコメントです。遠い記憶で比較すると逆にアゲマキのほうが目立ったような気がするんです。ところが前者の項では、アゲマキの市場名とも書いてあります。市場名は、似たようなものがあれば旨いと定評のあるものに化けるのが普通ですね。となるとマテガイのほうが一枚上か？

デモ、何回かそれを買った大阪のスーパーではちゃんと「アゲマキ」と表示してありました。まあ最近の商品表示がうるさく言われますからね。二つを並べてみた事はないのでドッチがドウかはっきり分かりません。アゲマキのほうはやや太めだった事とより柔らかめで旨かった記憶があります。尤もこういうものの味は「種」の違いもさることながら産地によってかなりの差が出るでしょうから、たまたまいいアゲマキに

当たったのかもしれませんが。九州のかたはその辺も良くご存知と思います。

その後、伊万里へ入港した時、久しぶりにアゲマキをと思い、小料理屋で聞いたら時期ハズレで駄目でした。春先から初夏のごく短い期間だけなのでしょうかね？

さて、今日の題、ナバハスがこのどちらなのか？ **navaja** 折りたたみ式のナイフ、剃刀、いのししの牙、毒舌・悪口、そしてマテガイとあります。明らかにナイフをたたんだ形とマテガイが似ているからこう呼ばれるのでしょうか。毒舌というのがいいですね、寸鉄人を刺す、か？ 日本では馬刀貝という字も当てます。和英・英和を引いてみると **razor clam** という言葉が出てきます。やはり剃刀、同じ発想なんですね。

しかし、ここで辞書にマテガイとあるから、ナバハスはマテガイだとは素直に考えたくないのです。単にマテガイのほうが一般に知られているからか、又はアゲマキを知らないか、アゲマキとの違いをしかと理解していなかったのかもしれない。Nは関西語圏、Rはどちらかというに関東語圏育ちで、ふたりともマテガイは知っていましたがアゲマキは知りませんでした。どうして外国語の辞書には動植物の名前について何科のナニとはっきり書いてくれないのでしょうか。その点、広辞苑は素晴らしい。

例えば誰でも知っている牛を引くと偶蹄類・ウシ目・ウシ科といています、これなら疑問の余地はないですよ。揚巻貝の市場名でもある、なんていうマテガイのことを、西和辞典はしっかり承知した上でソウだといっているのでしょうか？



これが問題のナバハス。やっぱりマテガイでしょうかね。水管の形がアゲマキとは違うと思うんです。如何？

本日はワイン蒸し+ **Penedés** の白。名前の如何にかかわらず味はブエノ。

\*\*\*\*\*

## \* 買い物百般 \*

この項は、日常の買い物で、異国だナーと感じた事や、なぜ？ どうして？ と思っ  
たことなどの紹介です。

\*\*\*\*\*

### 「RICE SAKE」の巻 2003年8月29日 更新

食事の連れに呑む、日本酒の代わりにするものはいくらでもあります。

ヴィーノ・ブランコ良し、ヘレス良し、アグハもまた良し。と、言い切ってしまうと  
清酒党の皆さんの反発を買うかもしれません。 呑む方はこの項のテーマではありま  
せんからおいといて、今日の話は料理酒です。

和風の味付け、特に煮物などにはどうしても清酒が欲しくなるのは当然で、こればかり  
は上記三種のどれも代用にはなりません。日本のスーパーならあって当たり前のも  
ので、この辺では手に入りにくいものの一つがこの清酒です。味醂もそうです。

デモ、幸いな事に清酒に関しては、隣町トレモリノスに常時置いている店を見つけて  
あります。この店はここに来てから比較的早い時期、多分1~2ヶ月の間に偶然通り  
かかって入ったのがきっかけでした。それ以後月に一度ぐらいは擬似日本食材を買い  
に行っています。

擬似、と言う所以は、いかにも日本のものようでありながら、良く見ると全く違う  
ものだからです。例えば「うどん」「そうめん」ちゃんとそう表示してあるのに日本  
製ではなく生産地は上海だったり、高雄だったりです。キッコーマン醤油もシンガポ  
ール製あり、オランダ製あり、もう無茶苦茶。勿論、味も似て非なるもの、です。

そうして、もうひとつはこの清酒「白花」です。ラベルにはそのほか「寿福」や「清  
酒」という漢字も見えます。英語でRICE SAKE とも書いてあります。更によく見ると  
THE REFINED KOREAN RICE SAKE と書いてあります。

あれ？ サケって日本語じゃなかったかな？ コーリアン・サケっていったいコリヤ  
なんじゃと思いましたネー。手元の辞書を総動員して SAKE をひいて見ました。研究  
社リーダーズ、大修館ジーニアス、オックスフォード英英にまでちゃんと SAKE また  
は SAKI と出てるんですネ。これは全くの認識不足でした。これは米醸造酒として日

本語・サケが世界的に(少なくとも英語圏では)認知されていると喜ぶべきなのでしょう。怪しげなノンベ・ガイジンが怪しげなアクセントでサーキとか言うのは40年来聞いてきましたがソレはノンベだけが知るニホンゴだと思っていたのです。しかし、SAKE はりっぱな英語だったんです。だから KOREAN RICE SAKE は英語としては100パーセント正しいわけです。けっして擬似日本製品ではないんですネ。



そもそもこの店は中国人経営の万屋で、ありとあらゆる種類の商品が溢れています。種々雑多な商品、例えば食器・衣類・日用雑貨・工具などに混じって前記のような国籍不明の食品が雑然と置かれています。冷蔵ケースには豆腐なんかも入っていて、何が何処にあるか最初に入ったときは30分があっというまに過ぎてしまいました。ベトナム生春巻で最近日本でも知られているライス・ペーパーなんかもあります。

豆腐は、木綿豆腐というよりドンゴロス豆腐とでも言いたくなるようなシロモノで二回ばかり味見してヤメにしました。ヤッコは勿論ステーキでも感心しませんでした。ライス・ペーパー、色は少々黒いですが上出来です。ベトナム航路に乗っていたときは随分これを食べました。生春巻にニョクナム・ソースもいいですが、中指の先ほどの太さで4~5センチ位に小さく巻いたものをカリッと揚げるとビールにはもってこいです。中身は何でもお好み次第。これもやはりソースにはニョクナムを欲しいところですが、七味だって、ワサビだって、ショウガだって、ラー油だって、タバスコだって、ハラペーニョだって、マヨ醬だって、幾つかをませこぜだって、何でもOK。そろそろ、清酒のストックがなくなったので、明日辺り又 KOREAN SAKE の買出しに行かなくては・・・。デモこの SAKE、酒としてはまだ一滴も呑んだ事ないんです。

\*\*\*\*\*

## \*エクスカーション\*

この項はアンダルシアの各地へ徒歩、電車、バスなどで行った DAY TRIP の紹介です。

\*\*\*\*\*

### 「ミニ・アルアンブラ」の巻 2003年8月29日 更新

今回はチョー近場、我が家から徒歩15分、交通費ゼロのエクスカーションです。

ここは正式には **Castillo de Bil-Bil** カスティーヨ・デ・ビルビル(ビルビル城)と呼ばれている、まあ言わばカルチャー・センターみたいな建物です。

多分ムーアがこの辺を支配していた頃の砦の遺蹟でもあったところへその復元の形で建てられたものと思います。詳しいイワレは知りません。

海岸線が少し出っ張って、且つ小高い崖になった部分に建てられています。目の前に200度の視角で地中海を望む絶好のロケーション、こんな所に住めたらさぞ気分もセイセイするだろうと思える場所で、現代人ならずとも別荘の一つも持てたら最高というところではあります。ここから東西200メートルの所にはそれぞれローマ人の遺蹟も残っていて歴史の古さを感じさせる場所ではあります。

ウチから海岸に向けて最短距離を歩いてゆくとイヤでもここに行き当たります。ですから私達は去年ここへ来てから、散歩のアシを海方面へ向けるたび、多分百数十回ここを通過していたのですが、冬から初夏になるまでついでこの建物の扉が開いているのを見ることはありませんでした。

夏になって滞在客の人数が膨大な数に膨れ上がってから、アチコチ、市の施設も活発に活動を始めました。先に紹介した野外音楽堂然り、この建物然りです。

私達は気づいて居ませんでした。夏になってから何回か無料コンサートなども開かれていたようです。

先週のある朝、Nが、何か煙が流れてくる、と言うので外を見たら、海の方から霧が流れて来ていました。Nは霧の海を見たことない、と言うので、じゃ行って見ようとすぐ飛び出しました。前線の霧と違ってこのテの霧・移流霧は太陽が高く上がるまでの短時間で終わりです。現役の頃、濃霧は大時化より嫌な天気で、特に港の内外や沿岸近くの船の多い所では一番避けたい自然現象でした。ま、それも今は昔。

この日の霧は濃霧ではなく、ミルクの中を手探りで、というほどのものではありません。それでも海岸に出ると見慣れた風景も一変して、沖を通る船が鳴らす霧笛も聞こえていました。しばらく霧の海を見ながらの散歩です。例のビル・ビルの崖から

海を見ていたのですが、ふと気が付くと建物の入り口が開いています。

別に何かの催しものがあるわけでもなく、単に内部を見せるために開けていたようです。夏になってから、日中はいつもそうしていたのか知りませんが、私達自身が深夜しか散歩に出なかったもので知らなかったのでしょう。早速入ってみました。なぜか係

りの人も見物人もおらず、借り切り状態です。

ここは気に入りました。復元ですから造作の新しさは仕方ありませんが、華美な装飾はなく、アルアンブラ宮殿等イスラムの遺蹟に見られるのと同じアラベスクが随所に施されて独特の空気をかもし出しています。勿論、ホンモノの持つ壮大さや豪華な雰囲気とは比較になりませんが、これはこれで十分に楽しめました。なにより誰もいない静けさがいちばんでした。その感じが写真に出ているといいんですが・・・。



(霧の海岸、ホテル群もかすんで、さすがに海水浴客の姿もチラホラ)



(カスティーヨ・デ・ビルビル正面、入る前はまだ霧が残っていた)



(仁王様や狛犬のような阿吽像か？ 多分同じ意味の入口両側のアラブ騎士)



(会議、コンサート、展覧会など多目的。床の大理石はホンモノ)



(こぢんまりのメイン・ホール。結婚式も可能だそうです、未婚の方、いかが?)

暫くの間人っ子一人居ないヒンヤリとした静寂の中で、アラベスクに囲まれた異国ムードを楽しんで外へ出たら、霧はもうすっかり晴れ上がり、いつものGINGIRAの太陽が輝いていました。今日も外気は35度を超えるのでしょう。

\*\*\*\*\*

## \* ヴィノ y セルベサ \* 暫定版

ヴィーノ、セルベサに限らずアルコール飲料全般にまつわるオハナシです。

\*\*\*\*\*

### 「ブランコ・ベスト・3」の巻 2003年8月29日 更新

ノンベが言うブランコは公園の「白いぶらんこ」ではありません。

「白」のブランコ **blanco** です。テレビでは毎日のようにカサ・ブランカという単語が繰り返し登場します。これは白い家、即ちホワイト・ハウスですね、米大統領がドウ言ったコウ言ったという話で、同じ白でもノンベにや全く関係ありません。

ここで少しスペイン語のお勉強。イランという方はとぼしてください。

ヴィーノ・ブランコ **vino blanco** とカサ・ブランカ **casa blanca**、ブランコもブランカも「白い」という形容詞ですが、先行する名詞の性、即ち男性名詞であるヴィーノと女性名詞であるカサに従って語尾が変化します。

単純に言ってしまうと **vino** の語尾は **o** だから **blanco** とこちらも **o**、**casa** の語尾は **a** だから **blanca** と **a** に変化します。名詞と形容詞の関係はこんな風ですが、ややこしいのは文法には常に例外が付きまとう事です。**a** で終わる男性名詞もあるし、**o** で終わる女性名詞もあります。**a** や **o** で終わらない名詞も沢山あります。

さらに名詞を先におく場合と形容詞を先におく場合があり、更に更に同じ名詞同じ形容詞の組み合わせでも前後が逆になると意味が変わる、ナンテ事になるともう外が白く薄くなった頭、ナカも真っ白になってとても憶えられるものではありません。

ヴィーノが男性というのには異論はありませんが、同じアルコール飲料セルベサは女性、どちらかというとなっぽいアイスクリーム **helado** エラードやカフェ **café** は男性です。語感ではナカナカ判断しにくいんです。これらは全てバル **bar** においてあってバルはさすがに男性です。

「一つの」という意味の極めて簡単な単語でもウン **un**、ウノ **uno**、ウナ **una**、と三通りに使い分けます。アタマでは一応分かったつもりでも町に出ればもう出鱈目。でも魚屋のオバちゃんも、トドのオジさんも何とか分かってくれます。

もっと若く、記憶力があるうちにやっていたら楽しい言葉だと思つづく思います。自分はまだ若いと思っているあなた、ドウですか、スペイン語はじめてみませんか？

さて、本題にもどります。ベスト・スリーといっても、味が、ではなく私達の財布にとっての「ベスト」なので誤解のないようにお願いします。「うまさ」だけで言えばいくらでも上はあるでしょうが、何回も言うように5ユーロを超えるものは私達にとっては存在しないのと同様です。ではまず、下の写真をご覧ください。



ちょっと鮮明度にかけますが、左から **Señorio de los Llanos** セニョリオ・デ・ロス・ヤーノス=1.99ユーロ、**Peralada** ペララーダ=2.99ユーロ、右端 **Viña Albali** ヴィーニャ・アルバリ=2.10ユーロ。

アレっと思いませんか？ そう、三本のうち二本が以前ご紹介した赤のベスト・3と共通なんです。特に意識したわけではないんですが「安くて旨い」を眼目に据えるところこういう結果になってしまうんですね。両サイドの二本のボデーガのあるじは実に私達と同じ視点で仕込みをしてくれていると思いたい。旨くても高くちゃナンニモならんというわけです。私達が何の先入観もなくこういう結論に達したのは決して偶然ではないと思います。この二本がそうかどうかは知りませんが、ベスト・セラーというものは所詮そういうものでしょう。とにかく貧乏人の強い味方です。

\*\*\*\*\*